

令和6年度 授業改善推進プラン (課題分析と授業改善策)

137 石神井台小学校

【令和6年度研究主題】 対話を豊かにし、自立的に学び育つ人間の育成
～単元内自由進度学習を学ぶ授業改善を通して～に基づく授業改善推進プラン

	課題分析	授業改善策	
1年	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名や片仮名が十分に定着していない。 長音・拗音・促音、助詞「は・を・へ」を正しく使う力が不十分である。 文字は読めるが、文章の内容を正しく理解する力は弱い。 順序立てて話したり、大事なことを落とさないように聞く力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に楽しく文を書く活動を取り入れ、文字を書く抵抗をなくす。 正しい文が書けるよう、日常的に練習プリントに取り組む。 長く親しまれている言葉遊びや、読み聞かせ、読書活動などを通して、文字や文章に親しみ、読解力を養う。 スピーチや少人数の話し合い活動を、日常的に取り入れる。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の学習に意欲的に取り組んだが定着していない。 主語と述語を含め、自分の考えを相手に伝える経験が不足している。 大事なことを落とさないように聞く力が不十分である。 言葉の意味を知らない。文章を読み取る力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 習った漢字を活用して文を書いたり、話したりする経験を増やす。 学習中にペア学習などの対話する時間を設け、主語と述語が伴う話し方ができるようにする。 話し合い活動では必然性のあるテーマを設定し、相手の話を聞く良さを実感できるようにする。 言葉の意味を確認し、文章の内容が分かるようにする。 音読を多くする。文章から大事な言葉を探したり、サイドラインを引かせたりし、正しく読めるようにする。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> 音読では、正しく読めなかったり読み飛ばしたりしてしまうことがある。 段落を見つける活動などは、児童によって個人差が大きい。 考えたことを文章に表せない児童がいる。 習った漢字を活用できていない児童が多い。 文章を書くときに「てにをは」を正しく使えていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して学習の始めの音読を十分に行い、文章に慣れ親しませる。 説明文の授業を通して繰り返し、問いと答え、はじめ・中・終わりの構成をつかめるようにする。 声に出して読む、よく見て書き写す、見直しをするなど様々な方法で、正しく書くための工夫を習慣化させる。 	
4年	<ul style="list-style-type: none"> 習得した漢字を正しく使って文を書くには課題がある。 読書活動には意欲的に取り組むが、内容を読み取る力は個人差が大きい。 問題文から題意を正確に把握する力は課題が大きい。 問いに対する答えを叙述から導き出し、求められている内容をまとめる力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 短文作文の活動を定期的実施し、漢字を正しく活用できる力を定着させる。 読書旬間では、読んだ本を紹介する活動を取り入れ、内容を把握する意識をもたせる。 文章を読み、キーワードとなる言葉を見つけさせたり、重要な内容にサイドラインを引かせたりして、叙述をもとに読み取るようにする。 叙述をもとに読み取ることに加え、大事な文を要約する学習をいろいろな単元で取り入れていく。 音読の時間を確保し、語彙や内容の理解を促す。 	<p>全学年通じて、毎週金曜日の朝読書の時間や、読書カードの活用を行う。読書指導を学校全体で行う。</p>
5年	<ul style="list-style-type: none"> 語彙が少なく、漢字テストの点数も低い。 文章題の読み取る力がない。 自分の考えを言葉や文章にして表すことに抵抗感をもっている児童が多い。 既習事項を生かしていない。 学習内容に対して取り組み方を工夫したり、友達の考えをもとに自分の考えを深めたりする児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書の時間を確保し、多くの文章に触れさせる。漢字小テストを定期的実施し、定着を図る。 モデル文や話型などのテンプレートを示し、自分の考えを表出することに慣れさせる。 前年度までの既習事項の復習をしてから単元に入る。 魅力ある単元のゴールを提示し、主体的に取り組めるようにする。 	
6年	<ul style="list-style-type: none"> 語彙の量が少なく、文章の内容が理解できていない児童が多い。 授業に主体的に参加できる児童とそうでない児童と二極化している。 どうしてその学習をしているのか、その意味を分からずに学習をしている児童が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 意味調べや読書活動等を通じて、語彙力を高める。また、音読の時間を多く確保し、内容理解に活かす。 導入を工夫し、学習の意味を掴ませる。また、学習への関心を高め、主体的に取り組めるようにする。 	
専科	算数：文章からその様子を想像したり、問われていることを正しく捉えたりすることが難しい様子が見られる。	算数：文章から図や式に表す活動を繰り返し取り入れる。順序を表す言葉や文をつなぐ言葉を示し、分かりやすくするための手段を伝える。	
	理科：学習方法や準備・片付け等を説明するが、話を聞かず活動できない児童がいる。	理科：授業の中で話をする場面やタイミングを毎回同じにし、話をするようにする。	
	図工：工程の理解、自分で考えて創作することが困難な児童がいる。	図工：アイディアや進め方が分かるように、黒板と大型画面に提示する。言葉だけでなく、写真や図を入れたり、色分けしたりして、活動中でも視覚的に自分で確認できるようにする。	
	全体的に片付けや作品づくりの時間配分が難しい印象を受ける。	準備から制作時間、片付けまでの時間配分を事前に伝え、黒板やタイマーを活用して児童がいつでも確認できるように工夫する。	
音楽：題材の見通しをもち、主体的に歌唱・器楽・創作の活動に取り組むことに対して、児童によって温度差がある。	音楽：題材の学習計画を児童と共有し、「あと何時間で何をするのか」を明確にする。 ICTの活用（例：お手本動画をQRコードで提示し、児童が自分のタイミングで学習に活用できるようにする等）により、楽しみながら自分のペースで学習を進められる環境を整備する。		